

住まいと暮らしのデザインブック

住まいnet新潟 vol.37

SPRING & SUMMER 2024

WWW.SUMAI-NIIGATA.NET 550yen

特集

グリーンと
暮らす

誌上で完成見学会

新潟の住宅実例集

住まいづくりのアイデアを探して

待つ空間

読者プレゼント!

資料請求された方々に多数プレゼントをご用意しております

SUMAIZUKURI
DESIGN
CENTER

SDC
NIIGATA

CONTENTS

特集 ライフスタイル提案

012 グリーンと暮らす

誌上で完成見学会

049 新潟の住宅実例集

050 株式会社アーキトライブ

056 有限会社大恭建興

062 roomz 株式会社星野建築事務所

068 オーガニックスタジオ新潟株式会社

074 ダイケンアーキテツ／株式会社大建建設

080 ブラウム建築設計事務所

086 アットホームラボ／株式会社アオキ住建

092 和ごころ工房／大栄建設株式会社

098 BANhome／株式会社藤真工業

104 株式会社稲垣建築事務所

Welcome to Modelhouse

119 モデルハウスへようこそ

120 T's home／津野建設株式会社

129 ビルダーリポート

130 エーセンス新潟／株式会社オシア

134 株式会社瀬賀工務店

138 デジモ?／株式会社モリタ装芸

142 LOCAL LIFE STANDARD／株式会社池田組

144 株式会社カタチ創庫

146 株式会社山築 一級建築士事務所

148 グリーンスタイル／ダイエープロビス株式会社

特集 住まいづくりのアイデアを探して

152 待つ空間

183 特集 月刊スマホ家マガジン
平屋のススメ

209 ビルダーズモア

232 ものの生まれるところへ
住まいNET新潟読者プレゼント

239 資料請求方法



Vol.37
SPRING & SUMMER 2024

Cover Story

朝が来た。ガラス越しに、グリーンを
光らせて朝日が入ってきた。二人は
まず、植物の様子を見る。水槽を見
る。水をあげたり、場所を移動したり。
慌ただしい朝のひとつも、植物や
小さな生き物と一緒に、少し和や
かに見える。

新潟市東区 T邸

Photograph: Noriki Matsuzaki

ハッピーな暮らしにスタンバイ



STAND BY HOME 長岡

MODEL HOUSE OPEN



2024.04.01 MON

長岡市陽光台4丁目

自然とひとつにつながる家

いつも、いつまでも、理想のなかに住んでほしいから、建てる時から、遠い未来の物語を設計していく。
人生の、どの瞬間にもちゃんと寄り添う。「STAND BY HOME」の家づくりです。

スタンドバイホーム長岡／株式会社東洋住建
〒940-0875 長岡市新保2-28-26 TEL 0258-24-8845
<https://standbyhome.jp/nagaoka/>

このモデルハウスは完全予約制です。
お電話・QRコードからご予約ください。

☎0258-24-8845



資料請求をして頂いた方先着30名様にクオ・カード
500円分をプレゼント。※詳細は239ページをご覧
ください。スマートフォンからでも資料請求できます。

見上げれば、春。

今年も会えたね。

もう1年。

いろいろあったけれど、
また、ここにいる。

空って、

こんな色してたっけ。

花も、昼と違う。

色深く、艶やか。

すぐに散ってしまうけど

だからこそ

今、この瞬間に沈み込んで

五感に刻みたい。

桜は、ちょっと立ち止まることを教えてくれる。

ここからまた始めよう、と思わせてくれる。

そんな春。

花は、めぐる春の里程標。
明白へのマイルストーン

水鏡の中にも、春。

今年も会えたね。

やっと1年。

夏も冬も越えて

また、花開くことができた。

空が濃くなっているね。

池に

一緒に映っているよ。

咲いた時が一年で一番

賑やかになるけれど

私たちはいつもここにいる。

一年の間、

生きて、眠って、花開く。

花は「ここまで来たよ」という小さな目印。

まだ道半ば。でも、確かにここまで来た。

それも春。

「家、建てようかな」。 思い始めたらここへ

あなたにぴったりの住宅会社を紹介します。

ADVISER

縁側、庭。二人のご希望が目に見える形で進んでうれしくほっとしました。

アドバイザー 小船井 みか



「『ほどこよい距離感』で
第一歩から完成まで
寄り添ってくれた」

CLIENT

「右も左も分からない」という
方にこそおすすめしたい。
家づくりの選択肢が広がります。

相談者 長岡市 I 夫妻



長岡市、東山連峰のふもと緑の中。インテリアショップ・H・S 長岡店の一角に「住まいnet新潟ラウンジ」はある。家を建てたい人と、地元の住宅会社をマッチングするこの場所に、I 夫妻は「家のことを相談したい」と訪れた。2 人目のお子さん誕生を前に、かねてから願っていたマイホームに向けて、一歩を踏み出すためだった。

大学時代に建築関係を学んでいたご主人は、地元の工務店にターゲットを絞っていた。「外観を見て、どこで分かれるような大手メーカーは避けたかった。自由に建てるなら、工務店や設計事務所だろう」と思っていた。まだ土地も決まっていなかった二人に、アドバイザーの小船井みかさんは「土地も探し始めましょう」と提案した。「プランを描いてもらっても土地が決まっていた方がいいこと、ローン決済にもプランが必要と聞いて、なるほどでした」。そう二人は振り返る。同時に、家づくりの流れやローンの手順を詳しく聞いて、どう進めたらいいかを定めることができたという。

土地を探しつつ、二人はビルダー選びを始めた。イメージしていたのは縁側のあるコンパクトな家。アウトドアが好きで、家でも庭遊びを楽しみたいという。また、「断熱性能が良く、快適な家が良い」という希望もあった。これに応じて3社が提案され、最終的に1社が選ばれた。

と聞くとスムーズだが、決まるまでには「いろいろな考えすぎて疲れた」という停滞期もあったという。肝心の土

地もなかなか見つからず、減速気味に。「そんな時でもどうですか？」などと急かされることなく助かりました」とI 夫妻は振り返る。「ほどこよい距離感でした」。その後、依頼に至らなかったビルダーにはアドバイザーから断りを入れてもらうなど「頼るところは頼らせてもらえた」と感謝を口にした。

自分たちの経験を踏まえて、家を建

てたいという友人にはラウンジを薦めているという二人。ご主人は「まだ、建てるかどうか決めていなくても、ここに来ればいろいろ教えてもらえてきつかけがつかめる」と話し、奥さまは「こんなにたくさん地元工務店があるとは知らなかった。選択肢が増えるのでまずは一度、来てみると思う」と締め

住まいnet新潟
LOUNGE

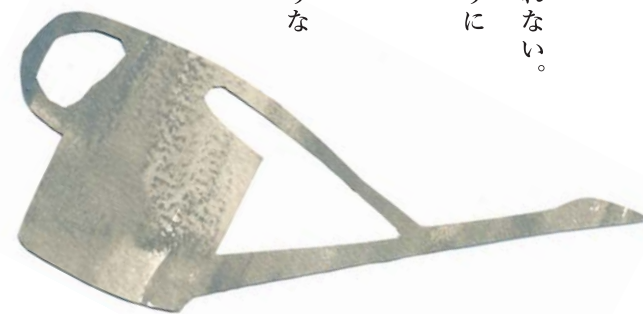
Living with Greens

特集

グリーンと 暮らす

グリーンを一つ、部屋に置いてみた。
はじまりは、軽い一歩だったかもしれない。
気づけば、緑の息吹に手繰られるように
部屋を、空間を
緑のために設えていた。
そんな、グリーンの中に沈み込むような
住まいを訪ねた。

撮影…松崎典樹



グリーンと
暮らす

Living with Greens 2

外土間は

ガラスの温室。

立体的な光の中

緑とともに暮らす

新潟市東区T邸

明るい方に顔を向けると

3層の緑のレイヤーが見える。

内土間、外土間、庭。

2つの土間には鉢植え、

庭の植栽を背景に

奥行きと生命感を増している。

見上げれば、2階のバルコニーにも緑。

光と透過する緑に包まれて、暮らしがある。

し字型の土間に囲まれて小上がりのリビングがある。正面、ガラスの向こうには外土間。さらにガラスの先に庭の植栽も見え隠れする。内土間とリビングは吹き抜けによって2階ともつながっている。水槽を置くために、土間に立ち上げた壁にはRCのカウンターを造作

「温室に暮らしてみたい」。

そこは光と緑のガラス箱

木々の間、ガラスの向こうに緑が見え隠れする。植栽の間を縫うように歩いて外から内へ。しかし、そこはまだ屋外の一部だった。光と緑に沈み込むような外土間。ガラスに囲まれ、まるで温室だ。そしてもう一つの土間は、部屋の中にあった。

「バナナとメダカの手入れをするのに土間があるといいと思った」。しかしその頃の二人の手元には鉢植え一つと水槽一つ。バナナは、ふるさと納税で「面白そう」と選んだ苗だった。それがどうしたことか。土間をあれこれ考えているうちに「温室」にたどり着いた。秋葉区にある

植物園への憧れも芽生えていた。「温室の中でお茶を飲んだりして過ごしたい」。話を聞いた佐藤靖久さんは、土間と土間、土間と庭がガラスでつながり、緑が重なり合うイメージを描いた。

庭と2つの土間、三層の緑のレイヤーと空間を並べることで、道路に面しながらプライバシーも確保する。グリーンカーテンならぬグリーンスクリーンのある家となった。

ガラスでつながる土間は二つ。グレーチングを介して上のバルコニーとつながる外土間と、LDKの一角にある吹き抜けの内土間。片や外部空間で片や内部空間。二人はそれぞれの場所

を環境に沿って、季節に応じて使い分けている。直射日光を好むか好まないかでグリーンの置き場所を決め、冬になれば内土間へと移動させる。朝起きて元気がないと見たら、葉にもたっぷり水を与える。

「温室なら緑がいっぱいあった方がいい」。家ができあがるまでの間にエンジンがかかり、気がつけばここまで増えた。苗だったバナナも身長を越えるほど。「もっと増やしたいしガーデニングもしてみたい」。住宅街の一角、緑の中にガラスの家が埋もれるようにある、そんな風景が見えた。

2階から外を見ると、正面にはバルコニー、その下に外土間と内土間。バルコニーへは階段の踊り場から行き来できる。バルコニーの床にはグレーチングを採用、光を透過するだけでなく水やりも可能



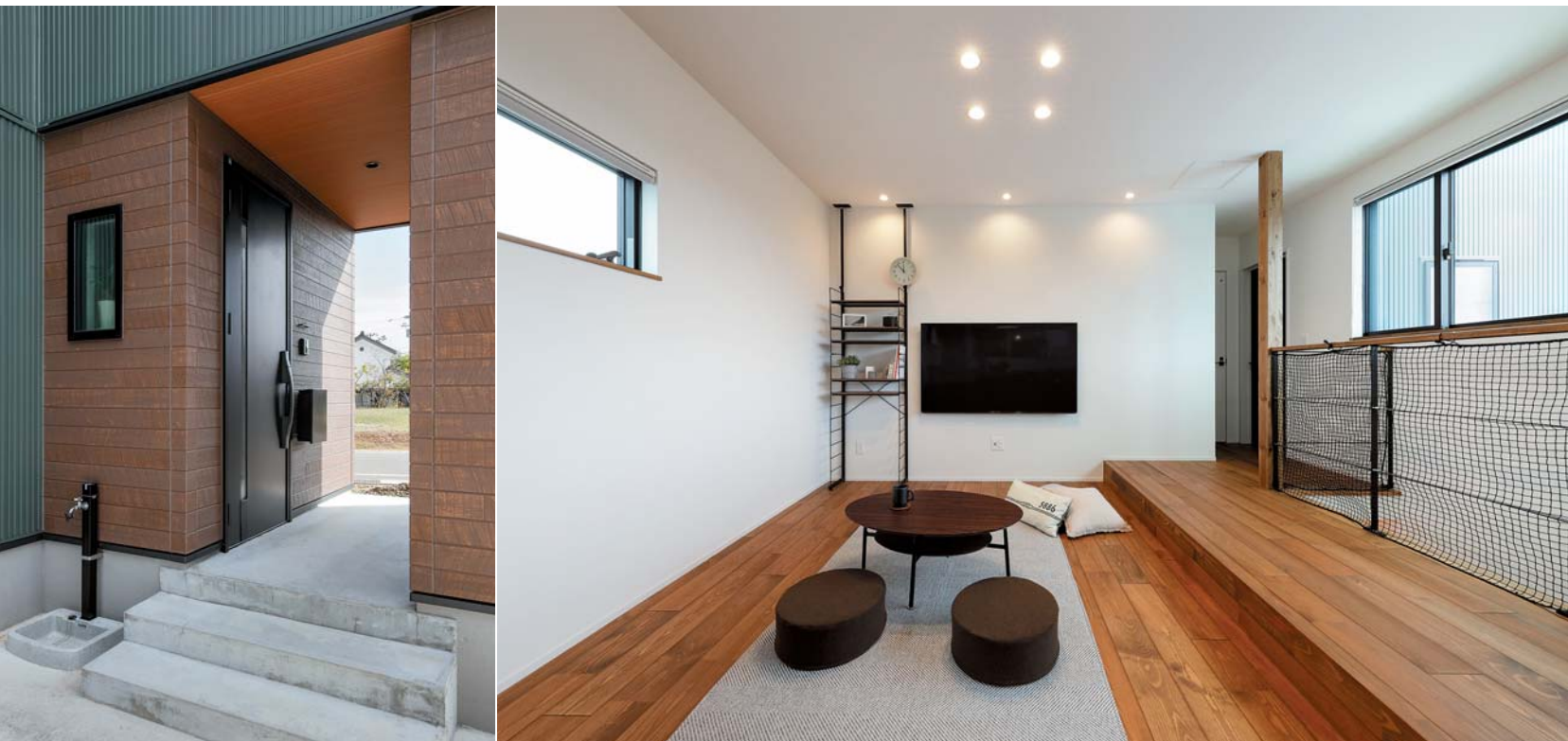
アットホームラボ／株式会社アオキ住建

柏崎市 O邸 | 木造軸組工法 | 工期150日 | フリープラン

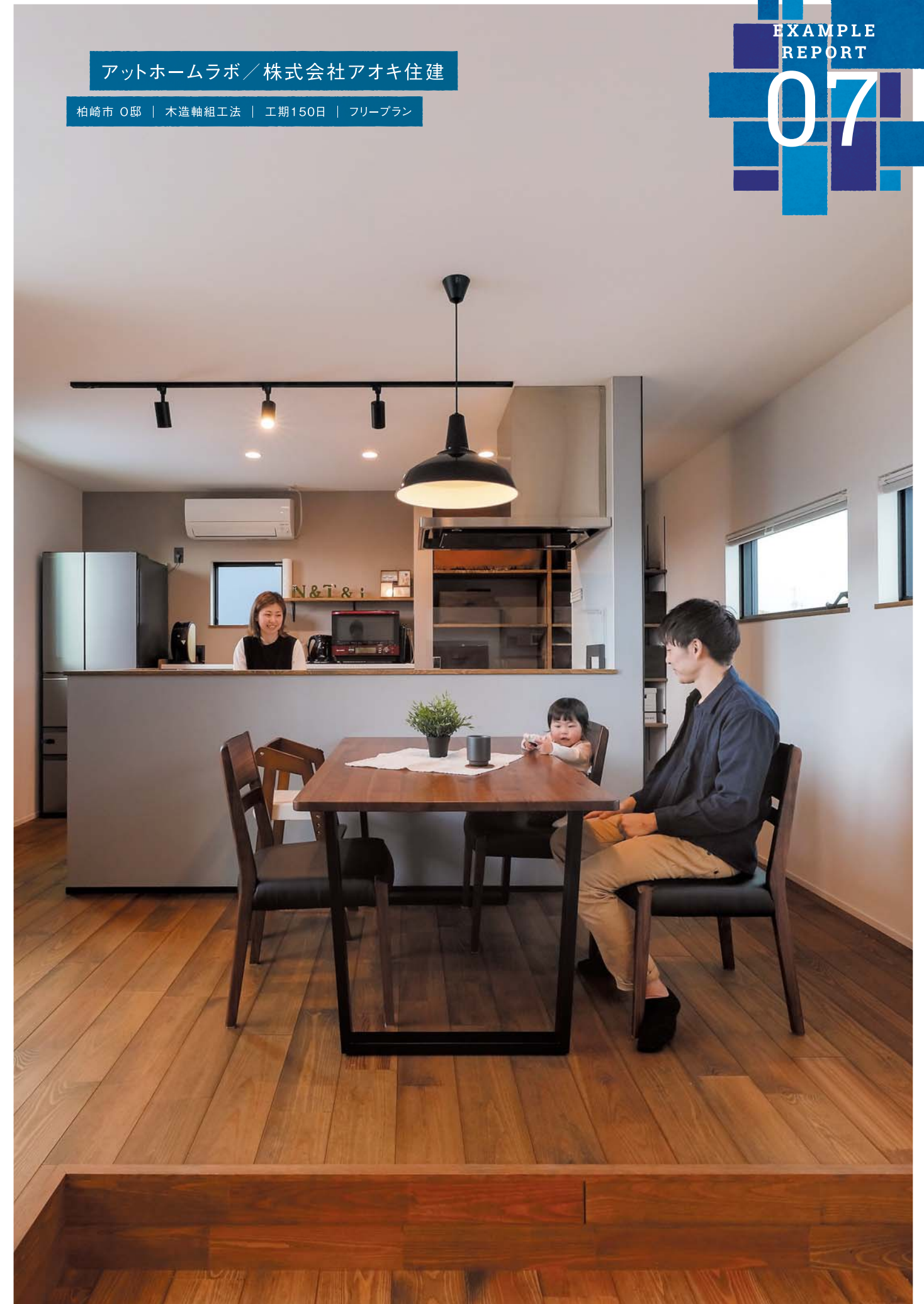
自然素材、性能、デザイン。バランスのいい住まい

三方を道路に囲まれた土地に建つL字型の家。
O夫妻の家づくりは、「いい感じ」という第一印象で始まった。
気持ちは揺らぐことなく、アットホームラボにすべてを委ねた。

お子さんが生まれるタイミングで、新築に踏み切ったO夫妻。まず向かったのは、アットホームラボ／アオキ住建のモデルハウスだった。同社が柏崎市に展開しているペーカリーショップ「しましま」に通う中で、母体が住宅の設計施工をしていることを知ったのだという。モデルハウス「ameiro」は「しましま」のすぐ隣。天然木をあしらったナチュラルな外観、明るい室内。「入ってすぐにいいな」と思いました。雰囲気も良かったし、冬なのにすごく暖かった。奥さまの好印象は、対応したチーフコンシェルジュの廣瀬淳一さんと話す中で、いっそう高まったという。フィリングが合うというのか、この方なら任せてもいいなと自然に思えたんです。ご主人は、いわゆる「営業っぽくない」姿勢にも好感を抱いた。驚いたことに、最後には「ほかの住宅会社も見てみてください」と提案された。「そう言われたからでもないんですが、ほかは見なくていい」とまで思う。O夫妻は、同社の見学会やほかのモデルハウスに通い始めた。「軒一軒、訪ねながら暮らしのイメージを描き、求める雰囲気や間取りを固めていった。特に印象的だったのが、ビットリビングだったという。」「こういうのいいなと、これも直感でした。同時進行で土地も同社と一緒に探し、希望のエリアの一角を紹介してもらった。ベースが整った。」「まったく迷うことなく」スタートした家づくり、二人の第一印象の強さが伝わってくる。



右頁／対面式のキッチンの前にダイニングスペース。キッチンの壁面には収納スペースを造り付けている 左頁・右／リビングスペースは一段下げてビットリビングに。右手には階段があり、窓からの光が一階にも落ちる 左／玄関は、道路から見えない位置に。右手には大容量の納戸があり、ご主人の趣味のグッズを収納



高窓から降り注ぐ光の中

LDKは眺めとくつろぎに満ちて

4 差路の角地、道路から少し高い場所に建つ木の家。RCのガレージは、家を守り、人を招き入れるゲートのような存在だ。「この土地の持つ記憶を再構築した」と設計した山下真さんは言う。「立派な門と庭のある、旅館のような家だった。そこが予定地と聞いて、浮かんだ。門をガレージに、庭の植栽を木の家に。組み直しをテーマに、外観が導かれたという。

Hさんは初回の打ち合わせに、自作の図面を持って臨んだ。「相模さんから、過去にそういう強者がいたと聞いて。あと、等身大を見てもらおうという気持ちもありました」。山下さんは面食らったというが、まっすぐに向き合った。図面を参考に、見える要望、潜在的な要望を整理し、「設計士のやるべきこと」として大まかなフレームを示した。最終的には、明るさと吹き抜けを要望したH夫妻に寄り添い、現在の間取りに落ち着いたという。

打ち合わせでは、間取りだけでなく素材、寸法、仕様など「浮かん

Hさん。その都度、長所と短所、全体とのバランスをしっかりと説明されたことから、「一つ、納得して次に進むことができたという。後半になると、Hさんの意見が採用されることも出てきた。例えば、サッシに障子ではなく断熱ブラインドと簾戸（すだ）を重ねた窓辺。ブラインドで熱射を、簾戸で視線をコントロールするという具合だ。もともと、隣家との関係で、理想的な東南に開くことができず、南西に開く形となっていたH邸。西陽の遮蔽は不可欠で、吹き抜けの高窓には防火シャッターも採用された。シャッター、簾戸、断熱ブラインドは、性能を確保し、心地よい暮らしを守る三役となった。

引越して約2年。久しぶりに顔を合わせて和みつつ「こうした方がいい」と新たに家具の配置を意見されて納得するHさん。終わらない設計と施主の関係は、本気でぶつかり合って生まれた信頼があるからこそだろう。家づくりを通して得た新たな価値観が、日々の暮らしの心地よさ、そのベースになっている。



— DATA —

敷地面積／187.44㎡(56.70坪)
 延床面積／160.62㎡(48.58坪)
 1階面積／79.49㎡(24.04坪)
 2階面積／81.13㎡(24.54坪)
 工 法／SE構法(重量木骨の家)
 基 礎／SE構法基礎
 断 熱 材／木質繊維ダブル断熱
 屋 根 材／ガルバリウム銅板
 外 装 材／透湿モルタル塗装
 内 装 材／EP塗装仕上げ
 床 材／三層フローリング
 開 口 部／木製トリプルサッシ
 キッチン／造作キッチン
 バスルーム／LIXIL リデア
 そ の 他／耐震等級3、長期優良住宅
 竣工年月／2023年10月
 家族構成／夫婦+子ども1人

roomz 株式会社星野建築事務所

〒950-0948 新潟市中央区女池南3-5-1
 Tel 025-281-1599 Fax 025-281-1598

詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

03

資料請求番号



資料請求をして頂いた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。※詳細は239ページをご覧ください。スマートフォンからでも資料請求できます。

上／インナーガレージのあるN邸。断熱材のECOボードは、将来的に増し張りも可能という半永久的な素材 中／リビングスペースは個室のような雰囲気。ソファは北欧のデザイナー、ボーエ・モーエンセンのヴィンテージ 下左／一面の壁に見えるが、和室と寝室への通路が隠されている 下右／洗面スペースにはPSのタオルウォーマーを壁に取り付け、補助的な暖房に

上／玄関を入ると右手にこの空間。「セレクトショップのような空間が欲しい」という一言からウォークインクローゼットを兼ねた土間を設けた 下左／玄関ホールには1台目の冷暖房機。2階にある合計2台に対して室外機は1台。メンテナンスも楽でコストも抑えられる 下中／2階にある和室。日本と北欧の雰囲気が溶け合う 下右／LDKの壁裏に寝室。壁の向こうにはウォークインクローゼット

シンプルで心地いい。
ダウンリビングと
テラスのある暮らしを提案

11

新松崎モデルハウス
T's home／株式会社津野建設

上質な時間が流れるダウンリビングとプライベートテラス。
T'sスタイルともいえるくつろぎの形を発信して、6年が経つ。
変わらない魅力は、訪れた人の実感の中にこそ、ある。



モデル
ハウスへ
ようこそ

Welcome to Modelhouse

まるでリゾート地の別荘にいるかのようなダウンリビング。
造り付けのローソファに座ったり、ソファを枕にして床暖房
の効いたカーペットに寝転んだり。テラスへとつながる開
放感とともに極上の時間を演出する



カウンターやテーブル、ソファなどもすべて造作に。シンプルに見える空間の至るところに壁面と一体化した収納が、それとは分らないように隠されている



6年を経ても美しさを保つプライベートテラス。メンテナンスの楽なグレーチングを採用し、外壁で囲むことで外からの視線を気にすることなく過ごせ、裸足でも出入りできる



飽きのこないシンプル、美しさを留める素材。変わらない魅力を伝えて

住宅街に建つオフホワイトの一軒家。その上品な印象は、ゆったりとしたボーイから玄関に入っても続く。アメリカンブラックチェリーの幅広の床、壁には天然石。そしてLDKには今やT's home／津野建設の代名詞ともなったダウンリビングが贅のある雰囲気醸し出している。リビングはそのままプライベートテラスにつながり、開放感と籠る雰囲気同居し、何とも心地いい。「写真や図面では伝わらないものがあると思う」。津野幹也専務は言う。モデルハウスをオープンして6年目。これまで多くの人が訪れ、家づくりのきっかけを提供してきた。壁面と一体化した多くの収納スペース、暮らしやすい動線。特にダウンリビングの説得力は大きく、依頼を決めた家族からは「このままでお願います」と任されるという。「このまま」とは、プライベートテラスやダイニングキッチンとの自然なつながりだけではない。勾配天井や収納を備えたTVボードなど暮らしやすさを盛り込みつつもシンプルでやわらか、そして品のある雰囲気をついにまともな設計と施工、つまりT's homeの変わらないスタイルにある。

大工工事はもちろん内外装工事、電気や給排水設備に至るまで専属のメンバーがチームで進めている。壁のように見える収納の扉、ホコリが乗らない入り巾木、ソファ、テーブル、カウンターなどの造作家具。丁寧に精緻な仕上げは、経験を重ねるにつれ、どの現場でも同じように、完璧に仕上げる再現性を持つに至った。技と経験の蓄積が、ほかにはない、この雰囲気を支えている。

6年を経たモデルハウスでは、素材や仕上げるの経年変化を確かめることもできる。外壁は横張り縦張りのガルバリウム、軒下部分は塗り壁。玄関ホール、床と壁は天然石で、和室のデッキは樹脂、テラスはグレーチング。時を経て味わいを深めた自然素材もあれば、簡単なメンテナンスで美しさを留めた素材もある。数年後の「実物見本」という視点で見えてはどうだろう。

6年前、「10年後もT's homeのモデルであり続けることを考えてつくった」モデルハウス。想定した未来が近づくと、変わらずに求められているという事実は、ダウンリビングとテラスのある豊かな暮らしが、最終形として始まっていたことを改めて感じさせる。写真や図面では伝わらない魅力は、体感してこそ分かる。



左／勾配天井のダウンリビングは大開口でプライベートテラスにつながり、開放感にあふれる 中／取っ手を付けずに壁面と一体化させた背面の収納もすべて造り付け 右／素材にこだわった和室は間接照明によって柔らかな雰囲気



左／天然石を敷いた玄関ホール。やはり天然石をシンメトリーに張った壁の奥には、隠れ家のような和室がある 右／邸宅感を漂わせるシャープな外観。4種類に張り分けられた外壁は、10年後の経年変化を確認する目的もある

待

特集

住まいづくりの
アイデアを探して

撮影 村井勇



空

人を待つ、乗り物を待つ、順番を待つ。
時には、夕暮れを待ったり、朝を待ったり。
待つ風景には余情がある。
一瞬の映像に詩がある。
だからだろう、
古来から「待つ」心もようは
景色や季節、風に託され、
歌に詠まれてきた。

来ぬ人を待つ夕暮の秋風は

いかに吹けばかわびしかるらむ

よみ人知らず

古からの待つ思い、歌を手引きに
「待つ空間」を訪れてみた。

間

待つ空間 2

燕市 齋藤歯科医院（SDC）

天井まで続く本棚にたくさんの本。
使い込まれたテーブルと椅子。
ブックカフェかと思いきや、歯科医院の待合室。
「待つ」のではない「くつろぐ」場所だという。

こっちの水は
甘いぞと
手招きしてる

待合室には、天井まで伸びる本棚と大きなテーブルと椅子がある。気楽に楽しめる写真や絵の多い本、絵本など幅広い。奥には子どもが絵を描いたりガチャガチャのできるスペースも

家づくりの基本を
暮らし方から考える

OCEA

BUILDER REPORT PAGE 130



エーセンス新潟／株式会社オシア

〒959-0222 燕市下粟生津604-5
Tel 0256-93-1070 Fax 0256-93-1073

代表者／笹口智也
創 業／2010年
資本金／300万円
従業員／5名

事 業 内 容／自然素材を利用した木造住宅・店舗の設計・建築、リフォームの企画・設計・施工
既存住宅状況調査、古民家の修繕・移築・リノベーション、アウトドアショップ「ocean's」の運営
AOUZE BASE シェアオフィス・コワーキングスペースの運営

取 扱 工 法／木造軸組工法
有 資 格 者／二級建築士 1名、2級建築施工管理技士 3名
免 許 番 号／建設業許可 新潟県知事(般-3)第41624号、二級建築士事務所 新潟県知事(ハ)第9563号
加盟瑕疵保険／株式会社日本住宅保証検査機構(JIO)

取扱い坪単価 ※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

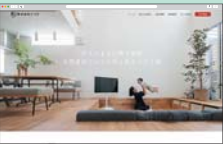
50万円未満	50～60万円未満	60～70万円未満	70～80万円未満	80～90万円未満	90万円以上
--------	-----------	-----------	-----------	-----------	--------

取扱いエリア	全 県	下 越	中 越	上 越
構造計算	全棟実施	要望により	非対応	

住宅性能	標準耐震等級			
長期優良住宅対応	ZEH対応	1	2	3



資料請求番号 12
スマートフォンからでも
資料請求できます。

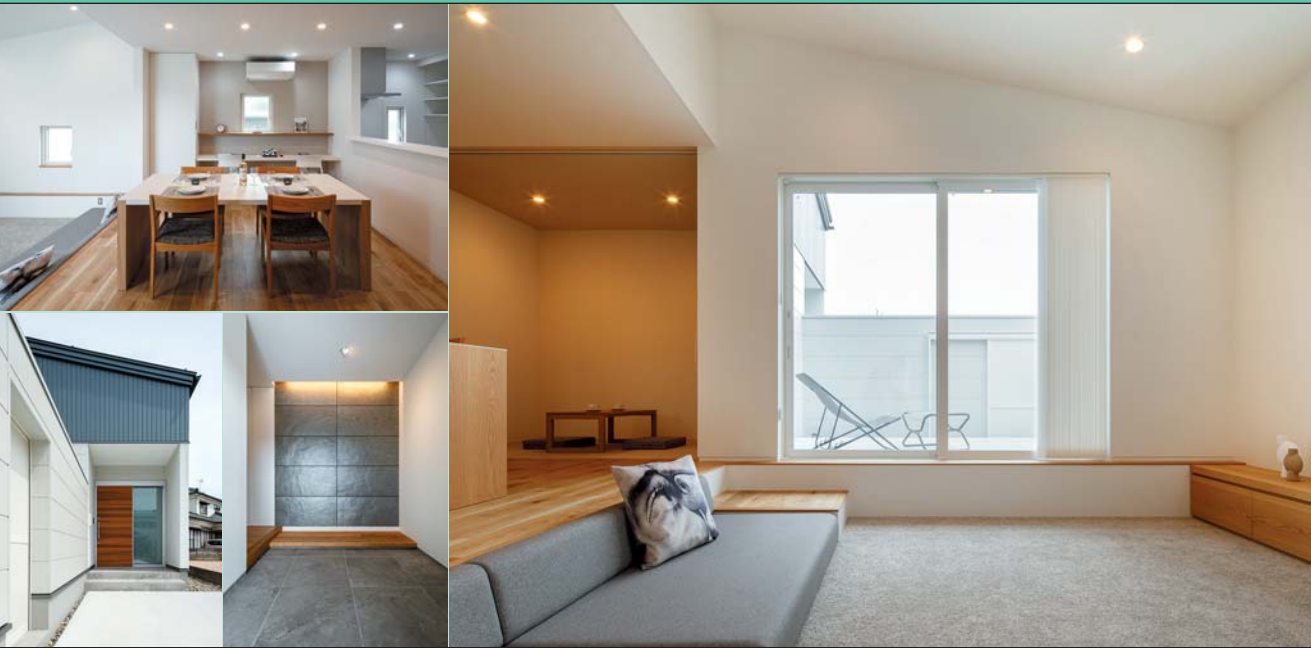


www.ocea-niigata.com

計算されたシンプルが生む心地よい暮らし

T'S HOME

MODELHOUSE PAGE 120



T's home／津野建設株式会社

〒950-3308 新潟市北区下大谷内378-23
Tel 025-259-8050 Fax 025-259-7756

代表者／津野樹志
創 業／1964年
資本金／3,360万円
従業員／10名

事 業 内 容／住宅・店舗の設計・施工・監理、住宅の改修・リフォーム、各種営繕工事、不動産業
取 扱 工 法／木造軸組工法
有 資 格 者／二級建築士 5名、宅地建物取引士 1名、1級建築施工管理技士 1名
免 許 番 号／建設業許可 新潟県知事(般-2)第2187号、二級建築士事務所 新潟県知事(ハ)第7623号
宅地建物取引業 新潟県知事(11)第2047号
加盟瑕疵保険／住宅保証機構株式会社

取扱い坪単価 ※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

50万円未満	50～60万円未満	60～70万円未満	70～80万円未満	80～90万円未満	90万円以上
--------	-----------	-----------	-----------	-----------	--------

取扱いエリア	全 県	下 越	中 越	上 越
構造計算	全棟実施	要望により	非対応	

住宅性能	標準耐震等級			
長期優良住宅対応	ZEH対応	1	2	3



資料請求番号 11
スマートフォンからでも
資料請求できます。



www.tsuno-home.com

J E J アステージ

プラスチックを

未来に再生

日本で工業化されたのは1950年代。

歴史は浅いものの

今や暮らしになくてはならない

素材となったプラスチック。

外国産が多くを占める中

プラスチック製品の企画設計から

成形、組み立てまでを

一貫して行っている企業がある。

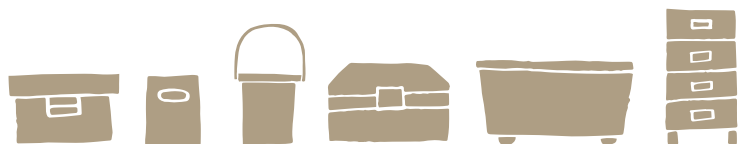
弥彦と三条にある工場を訪ねた。

撮影／渡邊久男



右頁／工場では冬期に生産されるクーラーボックス。「アイセル」シリーズ
2024年新色の限定カラー、ブルー。ホームセンターなどで手に入る 上／
工場の一角には大型製品の金型。成形機の中に入れて使う

「世界と戦える」
国産のプラ製品。
設計、成形、組立まで
一貫したもののづくり



クローゼット、パントリー、キッチンのすき
間に机の上、引き出しの中。暮らしを整え、
間隙を生かす収納ケース、クーラーボックス
やコンテナといったアウトドアグッズ。ライ
ンナップを見れば、誰もがうなずくだろう。
約10年前、コロ付き収納ケースでシェアトップ
となり、現在はクーラーボックスでもNo.1
を誇るプラスチック成形メーカー。ただ、
新潟県内に本社と主要工場があるとはあまり
知られていないのではないか。会社の名前は
J E J アステージ。1988年、前身の
プラスチック製造会社が創業し、10年後には
自社商品の発売を始めた。

成形しやすく大量生産が強みのプラスチックである。だからこそ、暮らしの中に広く入り込み、コスト競争に晒されてきた。そんな中で国内生産を続けてこられたのはなぜか。製造本部長の五十嵐豊さんは要因を挙げた。培ったノウハウ、機械のカスタマイズやロボット導入によるハイサイクル。工場を点在させて物流コストの抑制。結果「品質を担保しながらコストでも十分に戦える」体制が確立できたという。前身の創業から、40年弱である。

